

2011年度受託研究概要報告

有馬温泉観光案内所のリニューアルデザインに関する実践的研究

研究メンバー

相澤孝司	プロダクトデザイン学科教授
曾和具之	プロダクトデザイン学科准教授
馬場田研吾	プロダクトデザイン学科実習助手
野口正孝	ファッションデザイン学科教授
花畑江梨	ファッションデザイン学科実習助手
白本恵美	ファッションデザイン学科実習助手
かわいひろゆき	ビジュアルデザイン学科教授
安森弘昌	クラフト・美術学科准教授
松尾一朝	クラフト・美術学科実習助手

委託者

社団法人 有馬温泉観光協会

研究概要

本研究では、有馬温泉において、観光客と地域住民とが交流できる新たな観光案内所づくりを目的とした実践的研究を行い、また有馬温泉の文化・芸術等の情報発信と収集及びおもてなしのハード・ソフトの研究を行った。デザインの実践では、本学のプロダクトデザイン学科、ファッションデザイン学科、クラフト・美術学科、ビジュアルデザイン学科の学生および教員により、各学科の特色が活かせるパートを担当し、デザイン及び製作を行った。また、研究の結果、1-各学科有馬温泉のフィールド調査、2-アイデアの検討、3-ラフスケッチ作成、4-スケールモデル作成、5-原寸試作モデルを現場に



写真1 受付カウンター上部のボーダー



写真2 中央部円形カウンター

て検討、6-双方の承認、7-作品現場設置となり、一連のデザインプロセスが構築でき、完成度の高い作品を提案することができた。

研究成果

本研究では以下の研究を実践した。2011年12月11日(日)プロダクトデザイン学科、ファッションデザイン学科、クラフト・美術学科の学生および教員で有馬温泉においてフィールド調査を行った。調査の結果、有馬温泉の伝統工芸品「有馬籠」の竹の編組の紋様を案内所改装のデザインに採用することになった。以下学科ごとに担当したデザインについて述べる。プロダクトデザイン学科は、受付カウンター上部ボーダー部分のデザインを担当した。竹の紋様を塩化ビニールで真空成型し、前面の透明アクリル板にもサンドブラストで紋様を加工し立体感を出した。フレームは、タモ材を使用しオイルステインで仕上げている。1ユニットの寸法：高さ200mm、幅480mm、奥行き20mm。ファッションデザイン学科は、案内所西面のガラス窓部分のスクリーンシェードのデザインを担当した。綿オーガンジー素材に紋様をインクジェットプリントにより加工した。寸法は950mm×2700mm(1枚あたり)を6枚制作し、上部にネオジウム磁石を組み込み窓枠に取り付けた。クラフト・美術学科は、案内所西面のガラス窓部分のカウンターおよび中央丸テーブルのデザインを担当した。タモ集成材を使用し、ウレタン系の塗料でフィニッシュしている。カウンター窓面背部には、6箇所ガラスエッチング加工した照明(LED内蔵)を組み込んだ。カウンターテーブルの寸法全長：5530mm、奥行き(柱のアル部分最大寸法)：850mm、奥行き(窓面と平行している部分)：360mm、天板高さ：700mm、全高：910mm、中央丸テーブル：天板φ1200mm、高さ1000mm。ビジュアルデザイン学科も同様に、5月7日(月)有馬温泉のフィールド調査を行い、案内所内に展示できる有馬温泉のマップデザインを提案することになった。しかし、研究期間終了まで約2ヶ月となり、調査によるアイデアシートの分析検討に留まり、次年度に作品を提案することが双方で確認された。